薬用植物園かわらばん

いま、こんな草木も楽しめますよ！
草木に囲まれ心も体もリフレッシュ‥

２０２０年
５月３日
第８４号

アマドコロ（キジカクシ科）

第一圃場内で、葉の脇から鈴のような筒状の可愛らしい花が見られます。原産地は東アジアで、日本各地の山林や草地に見られる多年草です。根茎は横に長くのび、根茎の先から１年ごとに１本の茎を出すそうです。この根茎がヤマノイモに似て少し甘いので、アマドコロの名が付きました。根茎は生薬である玉竹（ギョクチク）となり、日本の漢方医学では使用しませんが、中医学では補陰薬として使用し、日本でもかつては民間薬として滋養強壮を目的に用いられました。なお、薬草園のラベルにある萎蕤（イズイ）という用語は、玉竹の別名です。

ところで、外観がナルコユリによく似ていますが、アマドコロは茎に数本の稜がある一方で、ナルコユリはそれがなく触ると丸く感じるところで区別が出来ます。ナルコユリの根茎は、生薬である黄精（オウセイ）となり、こちらは日本薬局方にも収載され、滋養強壮を目的とした薬酒やドリンク剤によく配合されています。生薬の玉竹と黄精の鑑別は、刻み生薬となると非常に困難です。

シロバナムシヨケギク（キク科）

同じく第一圃場で白いキク科の花がたくさん咲いているのが見られます。地中海・中央アジア原産の多年草です。日本へは観賞用として明治時代に移入しましたが、その後、花に殺虫作用があることが発見され、「除虫菊」の名で商品化、さらに、それを原料とした蚊取り線香が発明され、広く使用されるようになりました。花の真下となる部分、胚珠に、昆虫類・両生類・爬虫類のNaチャネルを開き、脱分極させる神経毒、ピレトリンが含まれます。不思議なことに、ピレトリンは哺乳類のNaチャネルに対する親和性が低く、毒性を示しません。現在では、ピレトリンの化学構造の基本骨格を持つ混合物、合成ピレスロイドが、蚊取り線香の原料に使用されており、この植物の商業利用はなくなりました。近縁種のアカバナムシヨケギクも、ピレトリンを含んでいます。

今、こんな草木が楽しめます！！